

「変身大賞」受賞者のプロフィール

企業部門 変身大賞

組織名	インターフェイス株式会社			
設立	平成 18 年 6 月	住所	秋田市中通 2-8-1 フォンテ AKITA7 階	
代表者	野澤一美 (52 歳)	社員	30 名	TEL 018-827-7155
事業内容	化粧品、日用品、サプリメント等の安全性・有用性試験の受託			
変身経緯 と 受賞理由	<p>・野澤社長は埼玉県の出身で、短大卒業後都内の民間企業に勤務していたが、25歳の時に英語を習得するためにアメリカの大学に語学留学した。</p> <p>・留学時に日本の化粧品メーカー等のモニターを体験し、卒業後もメーカーの勧めもあって化粧品や日用品の臨床試験の受託を個人事業として行っていたが、メーカーからこの事業を日本で行ったらどうかとの提案を受け17年に帰国した。</p> <p>・事業所の候補地としてOL時代からの友人が居て、女性の肌が綺麗な秋田を考えていたが、ビジネスプランが認められ県庁第二庁舎の創業支援室に入居出来ることになったので当社を設立し起業家としてスタートした。 (第一の変身:OLから語学留学・起業家)</p> <p>・堅実な取組みが委託メーカーに認められて受注も増え、社員も増員したことから事業所も旭北寺町を経て27年5月に現在地に移転した。</p> <p>・しかし最近では社員数の増加等もあり社員との関係が希薄化して来ていること、個人的にももう少し余裕を持った生き方をしたいと考えるようになったことから、会社経営を一度見直してみたいと考えて、創業時からの会員であった中小企業家同友会の経営指針を創る会を28年に受講した。</p> <p>・同会を受講するなかで社員とディスカッションして自社をドリームメーカーと定義し、経営者、社員、お取引様がそれぞれの夢を共有し実現を目指すことで幸せになれるのではないかとのビジョンを策定した。(第二の変身:ステークホルダー全ての夢を実現する経営者に変身)</p> <p>・それぞれの夢の実現を目指す経営者に変身することで、社員との関係も一層深まり、業績向上による雇用増等さらなる秋田県の活性化に貢献が期待できるので、変身大賞の趣旨に合致していると認められる。</p>			

「変身大賞」受賞者のプロフィール

地域社会部門 変身大賞

組織名	一般社団法人フードバンクあきた			
設立	平成 27 年 2 月	住所	秋田市土崎港西二丁目 3-24	
代表者	林 多実(55 歳)	役員数	5 名	TEL 018-845-2868
事業内容	生活困窮者への食料品の提供			
変身経緯 と 受賞理由	<p>・ 林代表は P T A 活動を通じて子供の貧困問題を知り、その解決策はないかと P T A 仲間と模索するなかで、全国では最後のフードバンクを任意組織として平成 27 年 2 月に設立しその代表に就任する。 (P T A 活動を行う専業主婦から社会活動家に変身)</p> <p>・ 事業内容はなんらかの理由で保管されたままになっている賞味期限前の食料品を個人、企業、諸団体から寄贈を受けて、県内の社会福祉協議会を通じて生活困窮者に提供することある。</p> <p>・ 最近では生活困窮家庭の児童に学生服や入学時に必要な学用品等もリサイクルして提供している。</p> <p>・ 組織を立ち上げた当初は、運営資金作りのために耕作放棄された畑を借りて野菜を作り、道の駅で販売し僅かな収入を得ていたが、そのことが地元紙に掲載されたことからサポーターの申出もあって事業継続の目途も立った。</p> <p>・ その後、近隣のフードバンク等のアドバイスもあり平成 28 年 8 月に組織運営の透明化を図るために一般社団法人にしたことから国の機関である「独立行政法人福祉医療機構」から助成を受けることが出来たので事業も軌道に乗りつつある。</p> <p>・ 最近では子供と云っても親の収入に依存して生活するいわゆる引き籠りの成人を支援する事例が増えている。</p> <p>親が亡くなったり施設に入居した際に、生活保護を受給する間のつなぎとしての支援である。この支援は当人達の自立を妨げているとの意見もあるので、自立のための就労支援等も視野に入れた活動も行っている。</p> <p>・ 以上のように貧困家庭への食料を提供することは、そこに暮らす人達に健康と精神的な安定をもたらすこと、及び引き籠りの人達の社会復帰を支援することは、秋田の活性化に貢献すると判断されるので変身大賞の趣旨に合致していると認められる。</p>			